問題を専門とする研究者が多いと考えられる。私ははじめて農村社会学会に参加するが、本学会は農村農業問題を中心にしていると思っていた。実際に、農村見学で三河の農村を見ることもできた。しかし、訪れた農村は想像と異なっていた。南巷口村は道の両側に工場や高層マンションが立ち並び、中国でいう"新農村"的な光景が続いていた。村民は既にマンションに住み、バイクに乗り、都市戸籍になったと村のリーダーは自慢気に語っていた。移動の途中には、トウモロコシ畑や工場、高層マンションが目立つ。北京周辺に立地しているせいか、昔の田園風景が見当たらなかった。

学会四日目のシンポジウムの内容は印象深かった。報告は農村の都市化を評価するものだった。報告者は「中国の農村問題を解決する唯一の方法は都市化である」と断言していた。そのとき農村見学でみた南巷口村のことを思い出した。この農村見学は主催者の主張の裏づけになっているのではと感じると同時に、中国農村の将来が心配になった。

私はまだ学会参加の経験は浅い。しかも今回は初めての国際学会である。大会テーマに沿って、学会運営が進められることは当然だが、しかし、そのテーマ設定に主催者の意図が大きく介在しているように感じた。今後、学会に参加するにあたって、研究者との交流や最先端の研究成果に触れるためだけでなく、大会の背後にある学会の主張を知ること有意義であるかもしれない。

（京都大学大学院）

研究活動報告 I

大学院ゼミナール

【地域産業分析】

2006年度後期

宮本憲一『社会資本論（改訂版）』有斐閣、2001年の購読

研究報告

2007年度前期

サスキア・サッセン『労働と資本の国際移動』岩波書店、1992年の講読

【国際農業分析】

2006年度後期

J.Martinussen, *Society, State & Market: A Guide to Competing Theories of Development*, Zed Books, 1997の講読

2007年度前期

J.Martinussen, *Society, State & Market: A Guide to Competing Theories of Development*, Zed Books, 1997の講読

【経済学古典研究】

2006年度後期

K.マルクス『資本論』第1巻の講読

2007年度前期

K.マルクス『資本論』第1巻の講読